日刊 動労千葉

84. 3. 22

No. 1597

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一―八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

『ハイ』といえ だとりゃなら辞めろ もう黙ってられない

3・25大動員で 目にもの見せよう

3・25まであと三日、五割動員実現にむけた各支部のこの間の苦闘は、いま大きく実を結ぼうとしています。

三月二五日、三里塚第一公園に動労千葉の大部隊で登場し、数千の労働者部隊を牽引して闘いぬこうではありませんか。

総反撃への突破口 ―それが3・25大結集だ

国鉄労働者をとりまく状況は、一段と厳しさを増しています。

国鉄二〇万人台体制をめざす、当局の合理化攻撃によって生み出された「過員」は、国鉄労働者に追いうちをかけるものとなっています。

全国の「過員」は、〝収容所〟につめこまれ、「いやなら辞めろ」と脅されながら、当局の都合のいいように使われ、強制的に配転されているのです。

すでに、点呼で「ハイ」と返事をしなかっただけで欠勤＝賃金カットが強行されたり（門司）、配転を拒否して不当解雇される（東京）という事態が発生しています。

こうした事態の始まりは、すべての職場の主導権の奪還を狙う当局が、いよいよ「職場規律の確立」による第二マル生にふみきったことを示しています。

動労千葉は81・3ジェット闘争をはじめ、労農連帯による三里塚闘争を闘いぬくなかで、今日の職場の力関係をかちとってきました。これをあくまでも守り抜き、より強固な組織体制を確立しなければなりません。

「過員」づくりの尖兵・動労「本部」革マルを一掃し、「職場規律」―第二マル生攻撃にたちむかう決意を、五割動員の実現によって示そうではありませんか。

3・25を総反撃の突破口としよう。

京新聞 3/2（夕刊）

点呼「はい」拒否で処分

門鉄局 2駅員を賃金カット

【北九州】国鉄は全国的に職場規律回復運動を展開しているが、長崎線諫早駅（長崎市東山町）の職員二人が点呼で「はい」と返事しなかったため、賃金に仕事をしたのに欠勤扱いされ、二人の一日分の賃金計一万五千円が二日間ちかくになった。「はい」拒否での賃金カットは全国でも珍しいケース。

「はい」が起こったきっかけは二人とも勤務につく「直前」の印を押して「はい、帰りなさい」と指令部に報告、十一月から二人の賃金計約

3/17

配転拒否の国労分会役員

国鉄が異例の懲戒免

労使の対立が激化している国鉄東京駅で、配転命令を拒否し職場に居続ける国労分会書記長に対し、国鉄当局は十七日、異例の懲戒免職処分にした。国労側は「組合活動つぶし」と反発、抵抗に持ち込む構えだが、当局は「現場に秩序を欠くためとった

当然の措置」と突っぱねている。

懲戒免職処分を受けたのは国労東京駅分会書記長で、同駅営業係（改札係員）だったAさんなどの。

Aさんは五十年四月同駅営業係になったが今年二月二十五日付で貨物専用駅の汐留駅輸送係に命ぜられた。

由として東京南鉄道管理局は業務のため窓口に来たA氏を不正乗車扱いにしたあげ、からかい半分で応対したり、駅管理者や同僚に対し冠をはいたり、いやがらせ行為を繰り返し、昨年七月保職三月月の処分を受けている。

現職員

『闘かおう』 動労「本部」の職場のようにならないために

新小岩支部

新小岩支部は、本部から水野副委員長、関特執を迎え、五〇名が参加して三月十九日に職場集会を開催しました。

水野副委員長から「とりまく情勢」の報告と、3・25五割動員の要請が行われ、松崎支部長から第八回定期委員会の報告をうけました。

松崎支部長は「乗務員の方は東京に乗り入れて悲惨な実態を承知していると思いますが、なぜ千葉の職場は東京のようにならないのか考えてほしい。しかし、千葉だけは大丈夫と思われては困ります。きちっと闘っていかないとマル生時のようになってしまいます。ワッペンをつけ、諸行動に参加し、団結して3・25を五割動員で闘おう」と訴えました。

職場集会は成功裡に終了し、その後定例の乗務員会が開催され、新小岩支部は支部委員以上の年休参加を先頭に3・25にむけ決起しています。

あと一歩。各支部奮闘

「勤務外全員参加」を合言葉に

初の2ケタ動員を実現する

銚子支部

銚子支部は三月十九日以降、宮崎支部長を先頭に全組合員との対話オルグを実施しています。

動労千葉のなかでは、最も小さい支部であるかわりに、まとまりは一番の銚子支部は、3・25二ケタ動員をめざして奮闘しています。